

「枕」

ー 思いを繋ぐアクセサリボックスー

A2201616 出崎 萌華

研究の背景

自身の体験談なのだが、思い入れのあるアクセサリに対し、ケースが既製品だと味気なく感じる。なので、中のものをより魅力的に感じられるケースを提案したいと考えた。家族や友人からの贈り物は大切であるが、人の記憶・物は色褪せていくもの。ケース自体も少しずつ壊れていく。贈り物だけでなくケースも大切にしたい思い出をいっそう鮮明に覚えていてほしいと考え研究を進めた。

研究の目的

- 次世代に「漆」の存在を知ってほしい(知名度の拡大)・興味を持ってほしい。
- 漆のケースに入れることで贈り物としての価値を高めたい。
- 過去から現代にそうであったように次世代に伝えていくものを制作する。

研究のプロセス

1. デザイン考察・決定

文献調査→アイデアスケッチ→デザインの決定



2. 制作工程

- 箱(形状の決定)

アンケートに基づき、大きさを検討→アイデアスケッチ→試作(スチレンボード)→形状の決定

- 箱(制作)

木地制作→木固め→布着せ(側面だけ)→めすり→蒔地(二辺地, 三辺地)内側→蒔地(二辺地, 三辺地)外側→捨て塗り→おい錆→固め→下塗り~上塗り

- 箱(装飾)

(中塗りの段階)蒔地で装飾を施す→漆を塗り重ねる→研ぎ出し→仕上げ→完成



木地制作

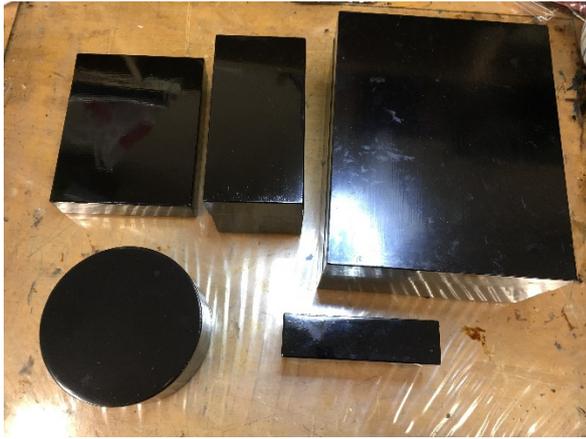


蒔地



塗り

成果物(完成作品)



入れ物(加飾なし)



収納した図

● 入れ物

ネックレスケース 140×110×30 腕時計ケース 140×70×80 ピアスケース 110×30×50
ブレスレットケース φ110×50 全てを収納する箱 180×130×90 (W×D×H)

アンケートや調査を行い、入れるアクセサリを決定し制作した。

一つのアクセサリに対し、複数の形状・サイズを調査し制作したので想定外のサイズでなければ基本的には入るよう設計した。

● デザイン

「長年愛される」「同年代の女性」を目的としてデザインした。

また、「花」をモチーフとして、4つの入れ物を四季の花、それらを収納する入れ物には周年の花を蒔絵技法でデザインする。

考察

私自身の経験から、頂いたものをより魅力的に、頂いた時の「思い出・感情」ごと大切にする方法はないか、と言う考えから研究が始まった。漆の箱を5つも制作するということが自体がなかったので、とても良い経験となった。また、箱の設計だけでなく加飾デザインを決定することも難しく、全てをバランスよくまとめまとまりを持たせるかという点に苦労した。

そして、贈り物(プレゼント)として同年代がどのようなアクセサリを頂いているかアンケートを取り、調査したことである程度、贈り物の規則性も垣間見ることができたのはこの大きさなどの決定につながった。

最後に、研究を通して制作した入れ物を使用することにより漆器への興味・関心を持ってほしいと考えている。この入れ物を通して気持ちや思い出を共有できるような関係が構築されると良いと思われる。